

# 岩村地区防災計画

～岩村の守るべき

「歴史・景観・地域コミュニティ」を

次世代へ繋ぐための取り組み～



▲次世代へ繋ぐ歴史・景観

令和4年改訂版

岩村町自治連合会  
岩村地区自主防災隊



## 第1章 基本方針

恵那市では、市の地域と市民の生命・財産を災害から守るとともに、市民一人一人の自覚と努力を促すことによって、被害を最小限に軽減するために必要な、防災に関する事項を総合的に計画した「恵那市地域防災計画」を令和3年7月に改訂しました。

この計画では、防災協働社会の形成推進を図ることとしており、「自助」「共助」「公助」の役割分担が明確化されており、地域で取り組むべき事項が明記されておりますが、災害の規模が大きくなればなるほど公助の部分が制限されるため「自助・共助」が大きな役割を担うことになるため、対策していかなければなりません。本計画ではより具体的な取り組むべき行動などを計画に位置付け、地域内の減災・防災を推進することを目的とします。

しかし社会情勢の変化などで地域のコミュニケーションが不足し助け合いにくい環境となっている。また高齢化社会において自分自身を守ることが難しくなっているため、『自助・共助』にどうやって取り組むのか、具現化する必要もあります。

## 第2章 地区の特性

### □地区の特性

当地区は、岐阜県の南東端部に位置しており、愛知県・長野県とも近く、平均標高は約500mあり、夏は涼しいが冬は乾燥し、寒さが厳しい地域であります。また地区全体は山に囲まれた盆地で形成しており、面積の約70%は山林で木曾川の支流である岩村川・飯羽間川・富田川が盆地内を北へと流れています。

岩村町は大きく分けて「岩村」、「飯羽間」、「富田」の3地区に分かれており、これは岩村町の歴史的な成り立ちにも由来しています。また当地区には、日本三大山城に選定されている「岩村城」や国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「岩村本通り」、「農村景観日本一」の称号を持つ富田地区など歴史と自然豊かな地域であります。

### □過去の災害

当地区で発生した、令和3年8月の集中豪雨では、飯羽間で橋梁流失・本通りでの床上浸水・河川氾濫による住宅地孤立などをはじめ、道路崩壊や田畑の流失など甚大な被害となり、平成元年以降大きな災害のなかった当地域には大きな打撃を与えました。

## □想定される災害

近年、地震における大きな被害は受けていませんが、今後予想される「南海トラフ地震」の他に恵那山断層が要因となる地震（予想地震規模はマグニチュード 7.7）が想定されているため地震発生時には大きな被害の恐れがある。

岩村町は、岩村地区・飯羽間地区・富田地区と大きく3つに分かれておりそれぞれ災害の種類が変わり多様性も求められてきている。

○岩村地区：本通りにおいて、木造家屋が近接しており火災時に延焼の恐れがある。

○飯羽間地区：河川下流部になるため長雨時は河川氾濫の恐れがある。

○富田地区：河川上流部にあたるため、川の流れが速く一時的な大雨でも氾濫する恐れがある。

土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が各所に点在し広範囲の災害が想定される。

## 第3章 地区の課題

岩村町自主防災隊当地区には34自治会がありますが、その内「12自治会にイエローゾーンの指定地域」があります。ただしその指定地域において、風水害での大きな災害は想定できませんが「地域内の要救護者が孤立する可能性」は否めないため、そういった災害弱者をいかに守るのか、今から対策を検討する必要があります。岩村町自主防災隊は、自主的な防災活動を行い、被害の防止や軽減を図るため組織されました。令和2年度には、活動方針の参考とするため、町民に対してアンケート調査を実施し、その結果、全国平均を下回る以下のような課題が浮かび上がりました。

○家族・近隣での防災についての話し合いがなされていない。

○家具転倒防止を実施していない。

○火災報知機を設置していない。

○非常用持ち出し品の準備がされていない。

アンケート以外にも次のような課題があります。

○災害の種類による訓練が不足しており、地域で指定する一時避難所の指定や開設等の対応が不十分である。

○自治会ごとに計画的な防災に対する取組がされておらず、他の自治会との連携もできていない。

○一人暮らしを含めた高齢者世帯が増え災害時の安全な対策が求められる。

○自治会未加入世帯・地域が増え有事の際の状況把握が困難になってきている。

## 第4章 自主防災隊の活動計画

町民に対して実施したアンケート結果等を参考に、次の7つの項目を重点項目として事業計画をたて、今後は段階的に自主防災隊が中心となって活動に取り組みます。

### □自分ではできない「家具転倒防止」の支援を行う

高齢者世帯や独居世帯で、各自では対策できない家具転倒防止器具等の取付支援を行う。

### □災害弱者等の把握と「安全マップ」「安心カード」の充実を図る

令和3年に改訂した「安全カード」により自治会員情報等を把握し地震その他の災害等が発生した際、救護できる体制を整える。特に災害弱者においては、民生委員、福祉委員との連携を密にして詳細を把握する。

「安心カード」は自主防災隊により随時更新を行い、有事の際に効率よく利活用できるようにする。

### □延焼危険区域に対して「消火器、火災報知機の設置」の徹底を図る

延焼の恐れが高い地区においては特に、対象世帯へ消火器設置の徹底を図る。

### □自治会未加入者における加入への啓発

準自治会地域に対し、防災を通じて自治会への加入を勧める。

### □地域誌による防災啓発

地域誌を通じ、防災行事の発信、防災への取り組みなどを掲載し防災の関心を高める。

### □防災訓練の多様化

図上訓練、炊き出し訓練、避難誘導訓練等、地域のニーズに合ったメニューを増やし地域にあった防災訓練を行うことで岩村町全体の防災力の底上げを図る。

### □小中学校や各種団体との連携

小さいころから興味を持っていただくことにより防災の基礎知識を身につけ防災力を高める。

# 第5章 検証と継続性

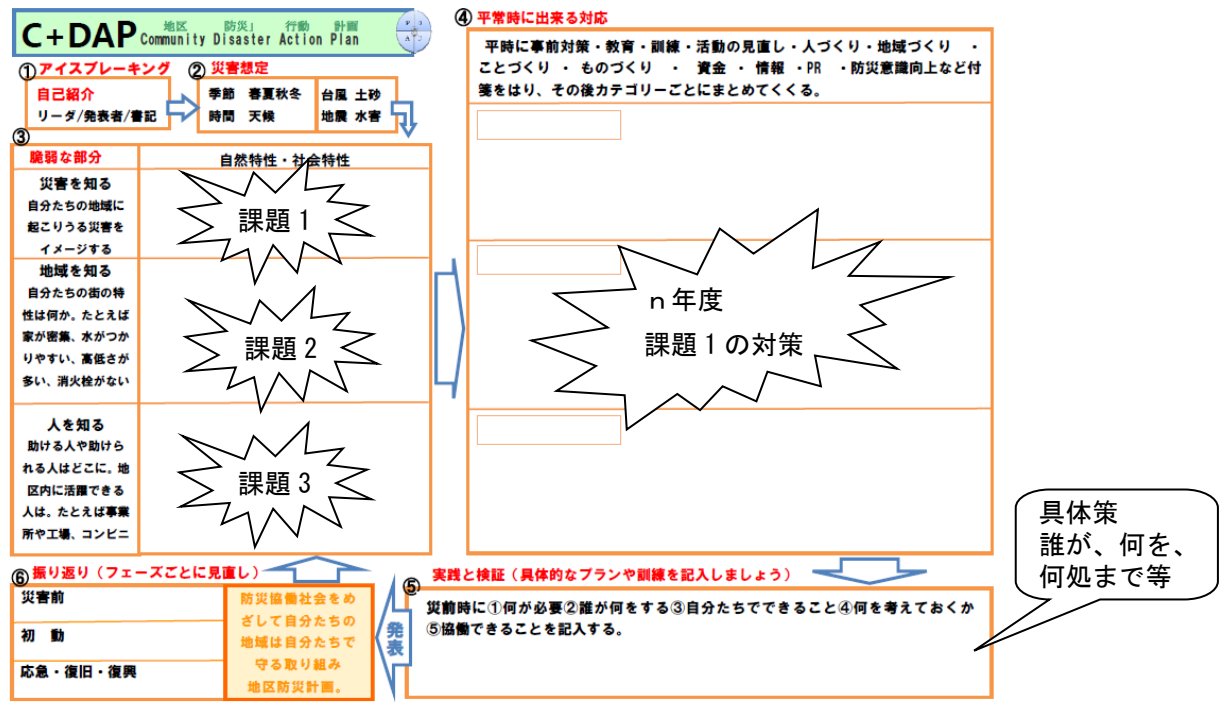
## (1) C+DAP（シーダップ）による検証と継承

C+DAPによる活動を実施した結果の検証もC+DAPにより行い、その検証結果を次に引継ぎでいきます。

## (2) 計画の見直し

この計画については、\*PDCAサイクルに従って見直しを行い、課題等の内容を変更する必要がある場合、所要の手続きを行います。

(C+DAPシート 恵那市自主防災隊運営ガイドを参照)



### 【用語解説】

PDCA サイクルとは、業務プロセスの管理手法の一つで、計画(plan)→実行(do)→評価 (check)→改善(act)という4段階の活動を繰り返し行なうことで、継続的にプロセスを改善していく手法。

資料

各自治会のレッド・イエローゾーンの指定区域

	土砂災害特別警戒区域		土砂災害警戒区域		
	土石流	急傾斜地	土石流	急傾斜地	地すべり
本町一丁目					
本町二丁目					
本町三丁目					
本町四丁目					
本町五丁目					
柳町					
新道					
江戸町					
新市場					
日の出町					
日の出三丁目					
殿町					
西町一丁目					
西町二丁目					
新町一丁目					
新町二丁目					
石畑					
大根洞					
朝日町					
一色					
緑ヶ丘					
領家					
大通寺					
山上					
一区					
二区					
三区					
四区					
旭ヶ丘					
上平					
五区					
六区					
七区					
八区					

## 指定緊急避難場所

名 称	住 所
岩村コミュニティセンター	岩村町 1 6 5 7 番地 1
岩村休憩所（旧岩村振興事務所）	岩村町 5 4 5 番地 1
岩邑小学校	岩村町 1 5 2 4 番地 1
岩邑中学校	岩村町 1 2 7 3 番地 1
岐阜県立恵那特別支援学校	岩村町 1 3 3 番地 3
飯峡会館	岩村町飯羽間 2 6 0 1 番地 3
ふるさと富田会館	岩村町富田 1 9 1 6 番地

## 防災倉庫名称、設置場所

防災倉庫名称	設置場所
岩村コミュニティセンター	岩村コミュニティセンター大ホール南側
菅沼駐車場	ローソン東側の駐車場
岐阜県立恵那特別支援学校	支援学校体育館東側
岩邑小学校	岩邑小学校体育館下ピロティ
岩邑中学校	岩邑中学校プール北側
飯峡会館	飯峡会館駐車場南側（消防器庫付近）
ふるさと富田会館	ふるさと富田会館駐車場南側（八幡神社側）

平成 2 7 年 1 2 月 2 5 日 初版発行

令和 4 年 6 月 1 日 一部改訂